

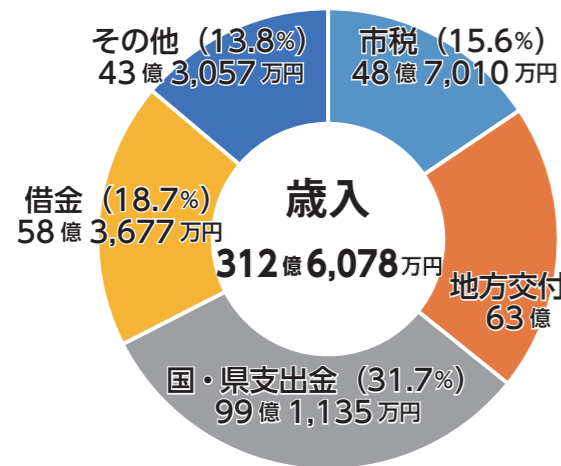
令和2年度 決算を報告します



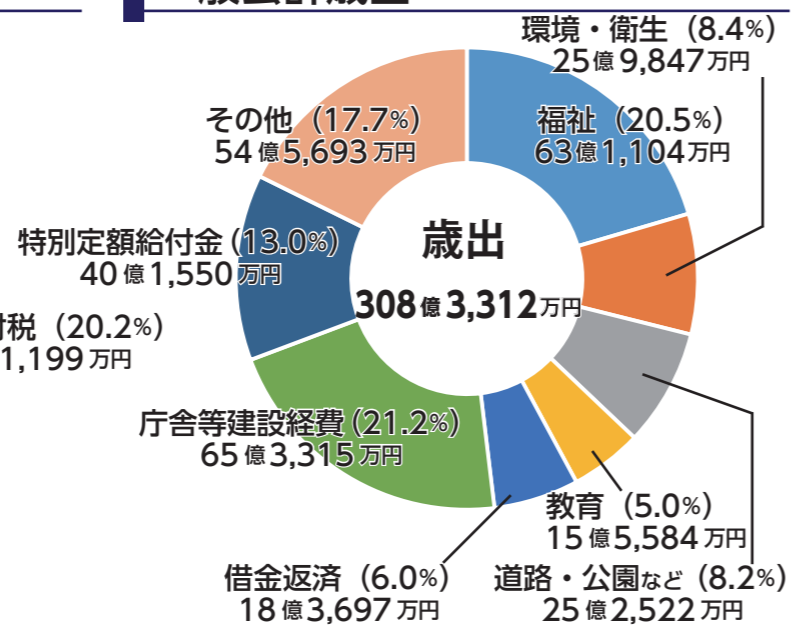
西脇市の令和2年度決算がまとまりましたので、一般会計、特別会計、企業会計の状況についてお知らせします。また、基金や市債の残高、健全化判断比率についても公表します。

◆問合せ 財政課（市役所内線 3015）

一般会計歳入



一般会計歳出



収支のバランス

令和2年度一般会計では、歳入総額が312億6,078万円、歳出総額が308億3,312万円で、令和3年度へ繰り越すべき財源の2億5,685万円を差し引き、1億7,081万円の黒字となりました。

また、特別会計と企業会計の決算概要は次のとおりです。両会計は特定の事業を行うために、一般会計とは分けて設置されるものです。



◆会計別決算

会計	歳入	歳出	差し引き	
一般会計	312億6,078万円	308億3,312万円	4億2,766万円	
特別会計	国民健康保険	44億460万円	43億1,079万円	9,381万円
	学校給食センター	2億8,544万円	2億8,544万円	0円
	老人保健施設	4億8,989万円	4億8,989万円	0円
	公営墓地	425万円	425万円	0円
	介護保険	48億4,809万円	47億5,279万円	9,530万円
	茜が丘宅地供給事業	2,700万円	2,700万円	0円
	後期高齢者医療	6億4,646万円	6億3,172万円	1,474万円
	太陽光発電事業	6,770万円	6,770万円	0円
企業会計	水道事業	9億7,085万円	10億8,157万円	△1億1,072万円
	下水道事業	19億6,252万円	19億6,239万円	13万円
	病院事業	88億516万円	87億9,954万円	562万円

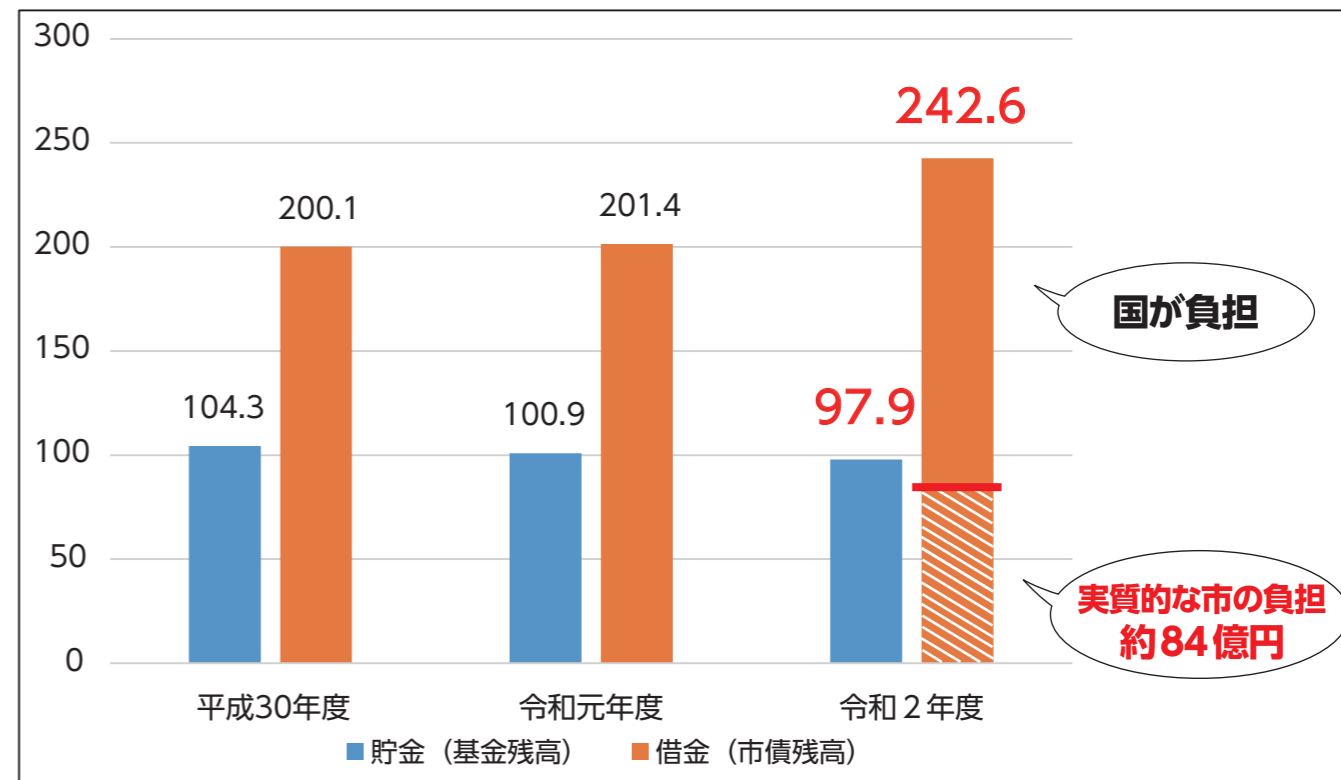
貯金と借金

令和2年度末の一般会計ベースの貯金（基金残高）は97億8,630万円となり、昨年度と比べて3億201万円減少しました。一方、借金（市債残高）は242億5,943万円となり、41億1,801万円増加しました。借金のうち、合併特例債および緊急防災・減災事業債の70%、臨時財政対策債の100%などが交付税措置されますので、**実質的な市の負担額は約84億円**となります。

なお、特別会計、企業会計を加えた市全体の貯金は106億5,976万円、借金は495億3,875万円です。



◆貯金と借金（一般会計ベース／単位：億円）



財政状況

自治体の財政状況を示す「健全化判断比率」では、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3段階に区分されます。

西脇市は令和2年度決算において、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれの指標も、国が定める基準を下回り、前年度に引き続き「健全段階」となっています。

西脇市は**健全財政を維持**しています。



◆健全化判断比率

項目	令和2年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	13.07%	20.00%
連結実質赤字比率	-	18.07%	30.00%
実質公債費比率	8.5%	25.00%	35.00%
将来負担比率	20.9%	350.00%	-

比率がマイナスになる場合、「-」で表記しています。

【指標の説明】

実質赤字比率…市の会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すもの。

連結実質赤字比率…全ての会計を合算し、市全体の赤字の程度を示すもの。

実質公債費比率…財政負担を見るために、借金の返済の大きさを指標化したもの。

将来負担比率…将来の負担を見るために、借金や今後支払いが見込まれる負債分を指標化したもの。